

平成 27 年度



第 7 号

練馬区立旭丘中学校：発行 11 月

ご褒美で子どもに勉強させること

校長 山谷 安雄

私が中学生の時に、近所の同級生の一人が定期テストで 90 点以上を取ると親から 2000 円貰っていたことがありました。私の親は、私を職人にしようと思っていましたので、よその家の話でした。しかし、親としては、何とか勉強してもらうためにいろいろ考えたくになります。私も 2 人の子どもを育てて、苦労した記憶があります。

アメリカでも同じことが考えられていました。【アメリカの 5 都市で、250 校を対象に、36000 人の生徒の追跡調査を 9.4 億円かけて行いました。】何が最も教育に効果があるか調べたそうです。() は私のコメントです。

子どもを勉強させるために、ご褒美をあげてはいけませんか、何に対してあげるのが一番効果的か？

結果：特に本を読むことにご褒美をあげると学力が上昇する。一生懸命勉強するのが楽しいという気持ちを失わせることはなかった。

(「宿題を終わらせる」「授業に出る」「テストで良い点をとる」でご褒美をあげることは、勉強することに対する意欲をなくすきっかけになってしまうようです。)

子どもは褒めて育てるべきか？

結果：子どものもともとの能力を褒めると、子どもは意欲を失い、成績が低下する。努力を褒められた子どもは成績が伸びた。

子どもがテレビやゲームを利用する時間を制限すべきか？

結果：テレビやゲームが子供たちにもたらす負の因果効果は、大きくない。1 時間テレビやゲームをやめさせても男子は最大 1.86 分、女子は最大 2.07 分学習時間が増加しただけ。

将来子どもが高い年収を得るだろうと期待して、教育に支出する行為について、低所得のアフリカ系アメリカ人の子ども達に、質の高い就学前教育等を年代ごとに提供し、40 年間追跡調査を行った。

結果：最も収益率が高いのは、子どもが小学校入学前の幼児教育への投資であった。

(私もこれを読んで、失敗したと思いましたが、子どもが小さいときは、収入が少なく、とても幼児教育に多くを費やせなかったと感じました。「三つ子の魂百まで」)

最後に、大変興味深い調査をこれからアメリカでやろうとしているので紹介します。

アメリカのシカゴ大学で、「認知能力」IQ や学力テストを重視した教育課程の保育園を一つ、「非認知能力」自制心ややり抜く力や人間の気質や特徴の総称を伸張させる教育課程の保育園を一つ、それぞれ作り、子どもの成長には、どちらがより効果的であるか。また、「保護者の役割」の効果として、子どもの発達度合に応じて年間最大 70 万円の報酬を受け取れる制度を作り(これは、子どもが大学進学まで積み立てられる)親の姿勢についても調べようとしています。

今後：対象者を数十年間追跡調査し、人生の成功には、認知能力、非認知能力、保護者の果たす役割のどれが重要なのかを明らかにする目的でグリフィン財団が 10 億円の資金提供して、科学的に調べようとしています。

【生徒の活躍】

部活動

- ・演劇部 11月1日(日)第66回練馬区中学校連合演劇発表会「修学旅行」で出場
- ・野球部 練馬区民大会 優勝

作品展等

- ・健やかカレンダー原画展 入選 遠藤拓斗 岸野竜也 志田夏実 清水麻那 豊島大登
- ・全国中学校文化連盟 総合文化祭東京大会 笹木愛実(書写)

【行事等の様子】

10月31日(土)本校体育館中心に文化発表会を開催いたしました。



『D組・竹取物語』



『1年・不思議の国・・・』



『2年・ミッション E』



『2年・鎌倉校外学習展示』



『3年・もしイタ～もしも高校野球の女子マネージャーが青森のイタを呼んだら』

【これからの行事】

- ・11月14日(土) 道徳授業地区公開講座 10:35～各教室
- ・11月18日(水)～20日(金) 定期考査
- ・11月25日(水) 校内授業研究(音楽)